「井上哲次郎口述 東洋哲学史」の翻刻

井上円了の東京大学文学部二年生の聴講ノート

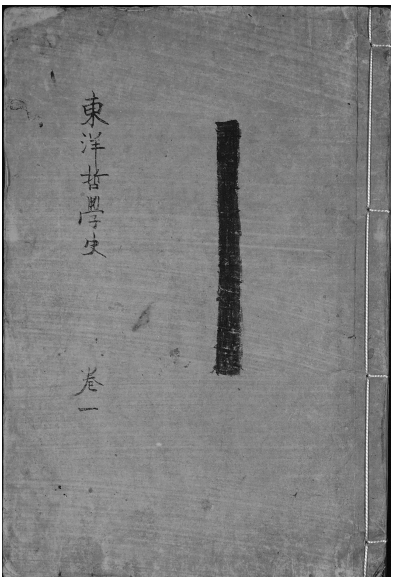
三浦節夫
miura setsuo

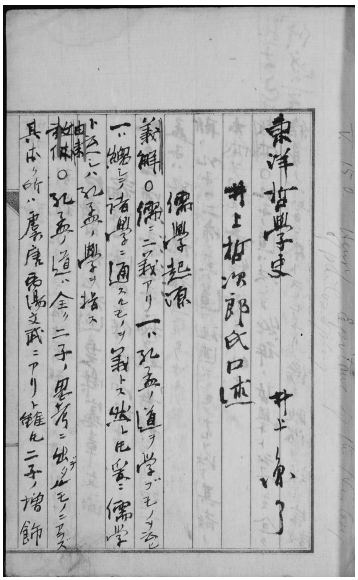
解題

本稿は、井上円了が一八八二～一八八三（明治一五～一六）年、東京大学文学部哲学科二年生のときに聴講した、同大学助教授・井上哲次郎の「東洋哲学史」のノートの翻刻である（ノートは井上円了研究センターの所蔵）。この講義については、哲次郎自身が『井上哲次郎自伝』の「巽軒年譜」で、「明治十六年癸未（西暦一八八三年）二十九歳／九月、始めて東洋哲学史の講義を開く。聴講者は井上圓了、三宅雄二郎、日高眞實、棚橋一郎、松本源太郎等拾数名なり。」(1)と記している。

ところが、円了のノートは、巻頭に「東洋哲學史　井上圓了　井上哲次郎口述」とあるだけで、開講日が書かれていない。先の「巽軒年譜」では「九月」から講義が行われたように書かれているが、この点が不明である。国立台湾大学の佐藤将之はつぎのように推測している(2)。

「円了による同科目の筆記ノートには、第五講が一月一一日と記されており、講義の日付は以下一週間ごとに進





む。したがって、哲次郎が前年の一二月から「東洋哲学史」の講義を始めていたことは確実である。」

円了のノートに書かれている開講日を列挙すると、「明治十六年一月ヨリ／第五講　一月十一日」「第六講　一月十八日」「第七講　一月二十五日」「第八講　二月一日」「第九講　二月十五日」「第十講　二月二十三日」「第十一講　三月八日」「第十二講　四月十二日」「第十三講　四月二十六日」「第十四講　五月十日」「第十五講　五月十」「第十六講　五月二十四日」「第十七講　六月一日」である。開講日は、佐藤将之が言うように、明治一五年中に始まり、翌一六年六月一日で終了したと考えられる。

つぎにノートの形態等について紹介しておこう。資料の形態は袋綴の半紙本で、数量は一冊、寸法はタテが二三・七センチ、横が一五・八センチである。表紙は薄茶色で、写真のように「東洋哲學史　巻一」と打ち付け書きされている。本文は和紙の罫紙で、写真のように各丁の表裏にそれぞれ一〇行の縦罫が引かれている。総丁数は五〇丁あるが、表表紙裏には鉛筆書きによる英文メモ

らしきものが記され、また裏表紙裏にも五〇丁裏に続けて講義の聴講記録がノートされている(3)。

翻刻は筆者の責任で行ったが、その過程で東京学芸大学の井ノ口哲也氏、東洋大学の播本崇史氏と井上円了記念博物館の北田建二氏に協力をいただいた。記して謝意を呈します。

翻刻はつぎのような方針で行った。

凡例

一　翻刻にあたっては、原文のままとした。

二　原文の漢字は、正字と俗字が混在していたが、字体はそのままとした。

三　カタカナの合字は、トキ、コトのように開いた。

四　判読不能の文字は、□で表記した。

五　原文には本文のほかに、欄外に書かれた文字があったので、本文と区別するために、〔　〕をつけて表記した。

六　赤色で書かれた、文字、傍点、丸点、傍線などはすべて黒色で表記した。

七　原文の改丁は一行アキで表示した。

八　編者の注記は、［　］に表記した。原文が誤字の場合、［　］で正しい文字を表記した。

【注】

(1)「巽軒年譜」『井上哲次郎自伝』井上正勝、昭和四八年、七四頁(『井上哲次郎集　第八巻』、クレス出版、二〇〇三年

所収）

（2）佐藤将之「井上円了思想における中国哲学の位置」（『井上円了センター年報』第二一号、二〇一二年九月、五三～五四頁）。

（3）井上円了研究センターでは井上円了自筆の聴講ノートをいくつか所蔵しているが、それらのうち袋綴の中本で、縹色の表紙に「支那哲学」と直書きされたノートがある。東洋大学附属図書館の展示図録『存在の謎に挑む　哲学者井上円了』（二〇一二年五月）では、今回紹介するノートとともに、このノートも井上哲次郎の講義の聴講ノートとして紹介しているが、これについては別の講義の記録などを記したものと考えられる。

東洋哲學史　巻一

東洋哲學史　井上圓了

井上哲次郎氏口述

儒學起源

義解○儒ニ二義アリ一ハ孔孟ノ道ヲ学ブモノヲ云ヒ一ハ總シテ諸學ニ通スルモノヲ義トス然レトモ爰ニ儒学ト云ヘシハ孔孟ノ學ヲ指ス

教体（由来）○孔孟ノ道ハ全ク二子ノ思考ニ出デタルモノニアラズ其本ク所ハ虞唐禹湯文武ニアリト雖トモ二子ノ増飾附加スルモノ尠シトセズ

右引証　孔子ノ堯舜文武ヲ祖述シタル證ヲ引クナリ

（中庸曰　仲尼祖述堯舜　憲章文武
論語曰　述而不作　信而好古）

然レトモ二帝三王ハ孔子ニ拠テ始テ世ニ顕ハルモノト知ルヘシ

孟子ハ孔子ノ説ヲ祖述スルモノナリ

斯ク孔子ハ二帝三王ノ道ヲ祖述スルモノナルヲ以テ其教ノ本体ヲ探ルハ書経ニ拠ルヨリ外ナシ

教体○孔子ノ道ハ決シテ純粋ノ哲學ト云フヘカラス全ク脩身ノ一学ヲ本トスルモノナリ傍ラ政治ヲ談シ宗教ヲ説クニ過キス其政治モ宗教モ皆脩身ニ本イテ立ツルモノナリ

〔孔子の道は「脩身」の一学〕

引證

書経、堯命舜曰允執其中厥

又　舜命禹曰人心惟危道心惟微惟精惟一允執厥中

以上二章ニ由テ中庸ノ事起ル

又　舜命契曰敬敷五教在寛

右ヲ以テ人倫之道ヲ説クモノナルヲ知ルヘシ

書経、舜命伯曰夙夜惟寅直哉惟精

又　又命夔曰直而温寛而栗云云

右ハ脩身之道ナルヲ證ス

然シテ孔子ハ脩身道徳ハ本ヲ天ニ皈シ以テ宗教ノ理ヲ説ク其遺書中ニ天災地変アル毎ニ天ヲ敬スルノ例少カラス

〔「孔子の説」修身道「ノ」徳藤樹の「修身為本」の説孔子の儒教を大観したるものといふ也〕

引證

舜命禹曰天之暦數在爾躬

又　四海困窮天祿永終

然レドモ孔子ノ天ヲ談スルハ蒼々タル天ヲ云フニモアラス又鬼神ニモアラス凡テ災禍アレハ其身ヲ慎ムヲ以テ天ヲ敬スルモノトス知ルヘシ其宗教ノ本全ク脩身ニ拠ルモノナルヲ是ニ就テ考フレハ孔子ノ教即チ禹湯文武ノ道ハ只世ノ道人ノ教ヲ説クモノニシテ希臘学者ノ如ク天地ノ現象ヲ究メ人生ノ真理ナドヲ證スルモノニアラス

〔慎身即敬天〕

史傳○孔子ノ在世ハ希臘ノ「ピサゴラス」ト其時ヲ同フス孔子道ヲ老子ニ問ノ事ハ尤モ怪ムヘシ老子ハ何時代ノ人ナルヤ未詳或ハ云フ孔子ノ後ナリト而シテ其二子ノ教全ク相反セリ決シテ師弟ノ因アルヘキモノニアラス此事ハ荘子ニ見ユト雖モ荘子ハ老子ヲ尊崇スル寓言ナレハ信スヘカラス

礼記ニ聞諸老聃トアリ老聃ハ大考壽ノ名ナリト云然レハ老聃ト云フモ一老人ト云フニ過キズ次ニ論語ニ竊比我老彭トアレトモ老彭ハ必シモ老子ナラス此両子ノ全ク師弟ノ関係ナキモノナル所以ハ左ノ二書ニツイテ見ルヘシ

詹雪崖。異端辨正

齋藤拙堂。老子辨

孔子ノ傳ノ詳カナルハ聖門人物表ニツイテ見ルヘシ

遺書〇孔子ノ直作ニテハ六経（今ハ楽記亡シテ五経トナル）

他人ノ手ニナルモノニテハ孝経、大學、中庸、論語、

〔礼記ハ孔子ノ親選ニアラザルナリ易ト春秋ハ孔子ノ直刪ニ出ツルモノナリ詩経モ孔子ノ親選ナリ書経ハ悉ク孔子ノ手ニ成ルニアラス後人ノ増補ナキヲ保シ難シ昔時ハ逸書二十四篇之レニ附属セシカ王肅之ヲ刪リ増多二十五篇ヲ加テ書経トナスト云其後呉才老朱晦菴両人ハ書経ヲ以テ贋作トナス之レニ反シテ真作トナスモノアリ〕

〇古書参考書目

老子　莊子　韓非子

墨子　楊子

孟子　荀子

鶡冠子　関尹子

鬼谷子　亢倉子

子華子　鬻子欠

公孫子　申子欠

立子　尹文子

黄石子

列子

淮南子

学津討原　十子全書

誥道大素　海津子享黄帝内経ヲ論シタル書ナリ

陰符経　黄帝之書ナリト傳フ真偽不可知

黄帝内経　（天元冊）

黄帝宅経　偽作ナラン讀書敏求記中ニ此経ノ説ヲ論シタルアリ

右四書ハ黄帝ノ教ヲ論シタルモノナリ

礼記。此書ハ孔子ノ真作ニアラス胡文燠ノ事物紀原ノ中ニ

月令ハ　呂不韋　王制ハ　漢文帝

中庸ハ　子思ノ作ナリト云

大学ハ　曽子　緇衣　公孫尼子

楽記ハ　公孫洪ナリト傳フ

孝経。此書ハ秦ノ火ニヨリテ亡失シ漢ノ時代ニ再ヒ顕ハル考[孝]経ニ二種アリ今文考[孝]経ハ河間顔芝始テ之ヲ世ニ傳フ其中ニ十八章アリ其外ニ孔子ノ壁ヲ毀テ得タル一経アリ之ヲ古文考[孝]経ト云魯恭王ノ時孔安国之ヲ註ス此本経ハ支那ニ亡ヒ隋ノ時新ニ之ヲ作ル然レトモ其真物日本ニ傳ハルヲ以テ遂ニ支那ニ入ル

大學。是レハ種々ノ説アリ朱子ノ説ニハ経ハ曽子ノ編スルモノニシテ其他ハ門人ノ集ムル所ト云之レニ反對スル論者中ニ陸深。李[カ]蓑。羅汝芳。陳耀文。樊良樞。朱彝尊等アリ其是非知ルベカラスト雖モ経ト傳ハ作者異ナルコ

ト明ナリ要スルニ編者不詳トスヘシ此篇ハ本ト礼記ノ一篇ナルニ程子之ヲ撰ヒ大学中庸ヲ分ツ其后朱子之ヲ註シテ四書ノ中ニ加ヘリ

論語。是書ニハ三種アリ

一　魯論　二十篇今日傳ハルモノナルヘシ然レトモ今日ノ書ハ此三論ノ混スルモノアルベシト云フ

二　齊論　二十二篇　問王　知道ノ二篇多シ

三　古論　二十一篇　尭曰ノ篇ヲ二章ニ分ツ

語書ノ作者。程子ノ説ハ有子曾子ノ門人ニ成ルト云其故ハ有曾二子ニ子ノ字ヲ用ヰテアリ然レトモ曾子有子ト称スルコトハ他書ニ往々見ヘタリ然レハ當時両人ニ限リ子ヲ用ヘシカモ難計○班孟堅ノ説ニハ門人ノ集ムルモノナリト云○鄭康成ノ説ニハ仲弓、子遊、子夏ト云ヒ。□子□ハ樂成[正]子春、子思ナリト云。要スルニ論語ハ孔子ノ自選ニアラザルコト明ナレトモ作者ハ不詳ト知ルベシ、然レトモ此書ハ決シテ後世ノ偽選ニアルザルコト又明ナリ　伊東仁齋ノ是書ノミヲ用ヘシハ之レカ為メナリ

古代世間ニ行ハレタルモノハ詩経書経ニシテ漢以来孝経易春秋ヲ尊用シテ未タ論語ヲ尊重スルヲ聞カズ唐ノ諺ニ小児学問止論語ト云フコトアルヲ見レハ此時代世人論語ヲ賤ミタルヲ知ルヘシ其尊崇ヲ得タルハ宋ヨリ始マルコト知ルヘシ　程子ヲ以テ始メトス

家語。古人ノ言ニ論語ハ雅馴ニシテ家語ハ騁[蹉]駁ナリト此書ハ王肅ノ儀作ナリト傳フ本朝ニテハ太宰純之ヲ信用セシト雖モ決シテ信据スベカラス

孔子ノ事ヲ閲スルニハ説苑、新序、孔叢子、春秋繁露等ヲ参ヘ考スベシ

學風○老荘ノ學ハ概シテ之ヲ論スレハ社會ニ関スルコトナフシテ世間外ニ真理ヲ尋ヌルノ風アリト雖モ孔孟ノ學

〔第二別〕〔才三別〕

風ハ世態人情ヲ本トシ之ニ由テ教ヲ設ケ理ヲ尋ヌルモノト知ルベシ故ニ老荘ノ学ノ本トシテ論スル所ハ虚無恬澹ニ在リ孔子ノ教ニハ天道地道人道トノミアレトモ其主トスル所人道ニアリ荘老ハ天道ヲ本トス是両学ノ由テ異ナル所以ナリ支那学ノ西洋ニ異ナル一端ハ天地ノ思想ナリ易ニ曰ク法象莫大乎天地トアリテ天地一体ノ有様ヲ象リテ之ニ倣フテ人ノ行為ヲ施コスモノト信ス是則チ老荘ノ虚無恬澹ノ起ル所以ナリ孔孟ニモ又此考アリテ唯、天地ヲ象リテ而シテ其力ニツイテ論スルコトナシ両学共天地ヲ談スルト雖モ孔孟ハ之ヲ人事ニ止マルノミ孔子ノ天ヲ談セサルコトハ論語中ニ明ナリ

〔才一別〕

一才　子不語怪力乱神

二才　君子於其所不知盖闕如也

三才　索隠行怪後世有述焉吾弗為之矣

四才　未能事人焉能事鬼

五才　未知生焉知死

六才　敬鬼神而遠之

然レトモ荘老ノ学風ハ怪力乱神ヲ話〔語カ〕リ知ラザル所ヲ論スルモノトス支那人故ニ曰ク道ハ白璧ノ如ク儒ハ五穀ノ如シト

老荘ノ書ハ通暁シカタク孔孟ノ書ハ了解シ易シ是ニ由テ学者皆孔孟ヲ賛ケテ老荘ヲ悪ス

薛敬軒云

聖賢之言坦易而明白異端之言崎嶇嶇而茫昧

孔孟ノ學ハ人事ニ関スルヲ以テ〔改修〕進取スルノ風アリ老荘ノ学ハ無為ヲ談シテ世間ヲ離ルヽヲ以テ退守ノ風アリ之ヲ

證スルニ

孔子曰　苟有用我者朞月而已可也三年有成

又　曰　如有用我者吾其為東周乎

又曰　吾豈匏瓜也哉焉能繫而不食

是ヲ以テ孔子ノ教タル社會ノ進遷ニ從テ改脩スルノ風アルハ明カナリ是又世人ノ孔子ノ学ヲ用ユルモノ多キ所以也

第四講

論法　孔學○孔子ハ述テ作ラザルヲ主トスルヲ以テ其論スル所皆古人先王ヲ祖述スルモノナリ故ニ事實ヲ探リ例ヲ尋子[ネ]テ一種ノ真理ヲ證明スルニアラズ列子莊子ニ至テハ稍、例ヲ挙ケテ事ヲ徵スルノ風アリ要スルニ孔子ハ所謂ル論法ナルモノヲ用ヰザルモノト知ルベシ

學体○孔子ノ學ハ純正ノ哲學ニアラズシテ帰スル所脩身ノ一部ニアリ孔子ノ教ヲ談スルヤ人ノ機ニ應シ性ニ從テ其主義ヲ異ニス故ニ其経ニ論スル所多少ノ異同アリテ孝経大學中庸礼記論語皆論旨ヲ異ニス孝経ハ孝ヲ本トシ大學ハ脩身ヲ本トシ論語ハ仁ヲ本トスルノ類ヲ見テ知ルヘシ

○孝経　原理　孝

○大學　〃〃　脩身誠意等

○中庸　〃〃　中庸又知仁勇

○論語　〃〃　仁或義或孝悌或敬或文行忠信

斯ク書ニヨリテ其原理ヲ異ニスルヲ以テ後世學派ノ數流ニ分カタルニ至ル王陽明ノ學派アリ程子ノ學派アルカ如シ

周子　主ニ大極（太）ニ
程明道　〃　氣
程伊川　〃　理
邵子　〃　數
張子　〃　太虛
陸子　〃　心
朱子　〃　理与心
物徂徠　〃　礼楽
伊藤仁齋　〃　仁義

是皆孔子ノ教ニツイテ異説ヲ起スモノナリ斯ク其道多端ニ渉リ何レヲ本義スルヲ知ルベカラザルヲ以テ孔学ノ本義原理ヲ知ル至テ難シ要スルニ其教ノ本トスル所人ノ平常履行セザルヲエザル道ヲ云フ之ヲ例スルニ

○誰能出不由戸
○何莫由斯道

其人ノ拠ルヘキ道トハ即チ仁ニ外ナラズ其仁トハ四海万民皆一子ノ如ク観シ私欲ヲ以テ他ヲ害セズ天地ノ如ク清ク日月ノ如ク明カナルモノヲ云フ

引證

孔子曰語論　苟志於仁矣無惡也
○又曰〃〃　君子無終食之間違仁造次必於是顚沛必於是
　又曰〃〃　志士仁人無求生以害仁有殺身以為仁
○又曰〃〃　民之於仁甚於水火

明治十六年一月ヨリ
　第五講　一月十一日
孔子ノ仁ノ義ヲ説クニ人ニヨリテ其答ヲ異ニスルヲ以テ今此ニ其意ヲ鮮明スル容易ナラズト雖モ其一二ヲ挙テ之ヲ示スニ
　顔淵問仁
　　克己復礼為仁
　仲弓
　　出門如見大賓使民如承大祭己所不欲勿施於人在邦無怨在家无怨
　司馬牛
　　仁者其言也訒
　樊遲
○　愛人
又

居處恭執事敬与人忠雖之夷狄不可棄也

子張

能行五者於天下為仁　五者恭寛信敏惠

孔子自曰

剛毅木訥近仁

斯ク其説ク所区々ニシテ何レノ義ヲ以テ仁ノ意トナスヘキカ確定シ難モ要スルニ人ヲ愛スルノ義ヲ有スルコトヲ知ルヘシ然レトモ古代仁ノ字ヲ善ノ字ニ代用スルコトアルヲ見レハ只他人ヲ愛スルノミニアラス自分ノ善ヲ脩メテ人ニ及ホスモノナラン

○仁者衆善之稱

此鮮尤モ仁ノ義ニ近シト謂フヘシ

然レトモ其時ト場處ニヨリテハ他人ヲ愛スル義ノミニ用フルコトアリ例ヘハ　知仁又ハ知仁勇、仁義、仁義礼知等ノ如ク他字ト複用スルトキノ如也　論語中ニハ單ニ仁ノ字ヲ用フルヲ以テ衆善之称ト鮮シテ然ルヘシ

孔子ノ道廣シト雖モ其皈要ハ唯、仁ノ一義ニアリ例スルニ

○参乎吾道一以貫之　語論

曾子又謂其門人曰　語論

夫子之道忠恕而已矣

仁ハ衆善行ノ総稱ナルヲ以テ之ヲ別用スルトキハ種々ノ名起ル之ヲ父子ノ間ニ用フルトキハ孝トナリ君臣ノ間ニ用フルトキハ忠トナル

夫仁ハ斯ク廣キモノナルヲ以テ常ニ側ニアルモノニシテ常ニ之ヲ行フコトヲ得ルモノナリ故ニ孔子ノ言ニモ

為仁由己而由人乎哉

○仁遠乎哉我欲仁斯仁至矣

トアリ

有能一日用其力於仁矣乎我未見力不足者

此言ヲ以テ之ヲ見ルニ仁ハ行ヒ易シト雖モ能ク之ヲ間断ナク行フモノ甚タ少シ

孔子ノ門人ヲ評サレシ言アリ

評　雍也　不知其仁

〃　子路　不知其仁

〃　求也　不知其仁

〃　赤也　不知其仁

〃　回也　其心三日[月]不違仁其餘則日月至焉而已

自評　○若聖与仁則吾豈敢

是ニ由テ観レハ仁ヲ行フ甚タ難キヲ知ルヘシ一時之ヲ行フハ易シト雖モ間断ナク之ヲ守ルノ難キナリ

〔論文題論孔老二氏之學　二月十五日　為期〕

第六講　一月十八日

孔子ノ主旨トスル所日々時ニ間断ナク仁ヲ行ヒ苦ヲ離レ楽ニ就クニアリ故ニ漫リニ富貴ヲ願ハス唯、心ニ楽ヲ是レ期ス此意遺書ニ就テ考フヘシ

子貢

貧而無諂富而無驕如何

孔子

○　未如貧而楽。富而好礼者

孔子謂子路曰

女奚不曰其為人也発憤忘食楽。以忘憂不知老之將至云爾

孔子稱揚顔回曰

○　賢哉回也一簞食一瓢飲在陋巷人不堪其憂回也不改其楽。賢哉回也

孔子曰

知之者不如好之者好之者不如楽。之者

又曰

知者楽。水仁者楽。山

又曰

飲疏食飲水曲肱而枕之楽。亦在其中矣

以上挙クル所ヲ以テ孔子ノ道ヲ設[教ノ]クル主意ハ人ヲシテ苦ヲ去テ楽ヲ得セシムルニアリ而シテ萬事□障意ノ如クナラサルモノハ天命ニ帰シ自身ノ力ニテ行フベキモノハ楽ヲ生シ心ヲ安ンスルニアリ

孔子嘗テ門人ニ命シテ各其意ヲ述ベシム其時孔子深ク曾黙ノ對ヲ賞賛セラレタリ其對曰

暮春者春服既成冠者五六人童子六七人浴乎沂風乎舞雩詠而歸

孔子ノ此言ヲ嘆賞セラレタルヲ以テ見レハ其意心ヲ放チ楽ヲ専ラニスルヲ以テ自身ノ教本トナスニアリ決シテ唯、世ヲ棄テ俗ヲ離ルヽノ意ニ非ズ要スルニ唯、楽ノ一事ニアリ而シテ其意ノ如クナラザルモノハ都テ之ヲ天命ニ帰スルナリ孔子冉伯牛ノ疾ヲ哀テ言ハレタルアリ

亡之命矣夫斯人而有斯疾也斯人也而有斯疾也

孔子ノ派ハ専ラ命ヲ説キ墨子ハ非命ヲ談ス墨子ノ非命篇ニアリ　墨子ノ意トスル所孔子ノ説ニ反シ天下ノ治安ハ唯、人ニアリ天命ニアラスト云ニアリ然シ孔子ノ云所ハ人力ノ外ニアルモノヲ天命ニ皈スルナリ墨子ハ人力ヲ入テ云フ是レ孔墨ノ天命ニツイテ異ナル所也

孔子曰

噫天喪予天喪予

是レ孔子ノ顔回ノ死ヲ嘆シテ云ハレタルモノナレトモ以テ孔子ノ主トスル所天命ハ人力外ノモノニ帰スルニアルヲ知ルヘシ

又曰

予所否者天厭之天厭之

又曰

君子有三畏畏天命畏大人畏聖人之言

又曰

天生德於予桓魋其如予何

又曰

天之未喪斯文也匡人其如予何

以上論スル所ヲ以テ之ヲ観レハ孔子ノ天命ヲ信シ且ツ之ヲ畏ルヽ所以ヲ知ルベシ孔子之ヲ畏ル故ニ之ヲ禱ル

丘之禱久矣

獲罪於天無所禱也

第七講　一月二十五日　煖天雪泥満地　昨夕飛花今朝

支那ノ哲學中尤モ學者ノ喋々シテ止マザルモノハ道也道ニ三種ノ別アリテ天道人道地道トス其道タルヤ如何ナルモノナルヤハ知ルベカラズト雖モ支那學者ノ論スル所ハ天地ノ法ニ從テ履行スルモノニシテ人道ハ則チ天地ノ法ニ則トルモノト知ルヘシ孔子ノ説ク所亦是レニ外ナラザルナリ　之ヲ其書ニ考證スルニ

中庸　上律天時。下襲水土。（孔子ノ道ヲ評スルナリ）

○論語　天何言哉四時行焉百物生焉天何言哉（孔子自ラ言ナリ）

是ヲ以テ孔道ハ天時ニ則トルモノナルヲ信スルニ足ル

是レ孔道ノミナラス支那古来唐虞三代ヨリ礼楽衣冠等都テ日月星辰運行ノ象リテ摸造スルモノナリ其他史上ニ存スルモノヲ以テ之ヲ考フルニ支那人ハ天ヲ以テ智識ヲ有スルモノト想スルカ如シ而シテ此運行ノ理ヲ人ニ配シ帝王ヲ呼テ天子ト稱シ天下ヲ治ムルニ天ノ覆フカ如ク地ノ載スルカ如セヨ等トアルヲ以テ見ルヘシ孔子ノ道ヲ立ツル此運行順動ノ理ニ基カザルハナシ之ヲ他人ノ説ヲ假テ證スルニ論語ニ

子絶四云云

其註ニ　張子曰四者有焉則与天地不似

子張書諸紳

○　其註ニ　程子曰却与天地同体
立之斯立道之斯行
其註ニ　程子曰此聖人之神化上下与天地同流者也
是レ支那哲學ノ一種性質ヲ異ニスル所ナリ
右ハ孔子ノ遺書ニツイテ孔子道德ノ大意ヲ論スルナリ

第八講　二月一日　暖天

孔學ノ脩身ニ関シタルコトハ已ニ論シ終ルヲ以テ是ヨリ眼ヲ轉シテ政治上ニ渉ルモノヲ論セントス
孔子ノ政治ヲ談スル人ニヨリ時ニツイテ其對ヲ異ニスルハ仁ノ義解ノ問者ニ應シテ異ナルカ如シ之ヲ論語ニ考フルニ
子貢問政
○　子曰　足食足兵民信之矣　冨国強兵ノ意ナリ
子張問政
○　子曰　居之無倦行之以忠
季康子
○　子曰　政者正也子帥以正孰敢不正
子路
子曰　先之勞之

子曰　必乎正名乎

仲尼

子曰　先有司赦小過挙賢才

子夏

子曰　無欲速無見小利欲速則不達見小利則大事不成

景公

○　子曰　君々臣々父々子々

葉公

○　子曰　近者説遠者来

斯ク孔子ノ政ヲ説ク問者ニ應シテ異ナリト雖モ要スルニ孔子ノ政治ノ本トスル所ハ脩身道徳ニアリ則チ仁ヲ以テ政ノ本トセシコト明ナリ之ヲ孟子ニ考フレハ猶ホ瞭然タリ孟子ノ説ハ政治ハ仁義アルノミト云フニアリ言ヲ換ヘテ云ヘハ一身ヲ脩ムレハ一国モ治マルノ意ニシテ當時未タ脩身政治両學ノ分カレザルヲ知ルヘシ故ニ孔子政ヲ論シテ曰

（一）　敬事而信。節用而愛人。使民以時。

○（二）　為政以徳。

○（三）　道之以徳。齊之以礼。

（四）　能以礼讓。為国乎何有。

○（五）　其身正。不令而行。其身不正。雖令不從。

○（六）　苟正其身矣。於從政乎何有。不能正其身。如正之何。　子路

（七）　書、惟孝友乎兄弟施於有政是亦為政奚其為為政。□

○（八）　知所以脩身則知所以治人知所以治人則知所以治天下国家矣

○　又　大學之経云

身脩而后家齊家齊而後国治国治而后天下平

以上挙ノ所ニツイテ攷フルニ孔子ハ脩身ヲ以テ政治ノ本トセシコト疑ヲ入ルヘカラス　孔子脩身ノ本ハ仁ニアリ

老子ハ民ヲ愚ニシテ治メントス孔子亦此意ナキニアラス其言ニ之レニ由ラシムヘシ知ラシムヘカラスト云フアリ是等ノ点ニ至テハ大ニ自由主義ニ相反スルモノト知ルベシ

第九講　二月十五日　曇天

孔學ノ風タルヤ仁義ヲ尊ンテ利ヲ賤シムモノトス之ヲ證スルニ

孔子曰

放於利而行多怨

君子喩於義小人喩於利

賤貨而貴德

○　不義而富且貴於我如浮雲

子罕言利与命与仁

孔學ハ之ヲ西洋ニ尋ヌルニ「インチュイシヴム」ナリ

朱子曰

循天理則不求利而自無不利殉人欲則求利未得而害隨之云云

孔子ノ書中ニ見ル所ノ利ハ私欲ト公利相混スルモノヽ如シ故ニ宋朝ノ學者ハ其公利ヲ取リテ敢テ之ヲ棄テス朱子ノ論語ヲ註スルヲ見テ知ルヘシ

程子曰

窮経将以致用也

又曰

君子未嘗不欲利但専以利為心則有害惟仁義則不求利而未嘗不利也

是等ノ言ヲ以テスレハ朱程子ハ全ク利ヲ捨テサルカ如シ而シテ孔子ハ全ク利ヲ取ラザルカ如シ然レトモ若シ宋儒ノ説ヲシテ信ナラシムレハ孔子ノ謂フ所ヲ利ハ私欲ヲ云フナラン

孟子ト子思ノ問答アリ（孔叢子雑訓篇 并 通鑑周紀）

孟子問　牧民之道

子思曰　先利之

孟子曰　君子所以教民者亦仁義而已矣何必利

子思曰　仁義固所以利之也上不仁則不得其所上不義則下楽為詐此為不利大矣

是レ利ニ両義アルヨリ起ル然ラハ孔子ノ利ナルモノハ小利私欲ヲ云フニ過キザルヘシ公利ヲ以テ論スレバ子思ノ言ノ如ク仁義モ亦利ナリ

○老荘ハ自愛説（イコヽイスム）ニ帰シ孔氏ハ他愛説（アルトルイスム）ニ属ス墨子其間ニ立テ兼愛ヲ唱ヒ楊子ニ至テ自愛説愈〻盛ンナリ

孔子ノ他愛ヲ考證スルニ

孔子曰

○　汎愛衆而親仁

子貢問孔子曰

如有博施於民而能済衆何如可謂仁乎

孔子答曰

何事於仁必也聖乎堯舜其猶病諸

又曰

○　愛人

○孔學ハ政治ト脩身ヲ混スルモノナリ一人ヲ修ムルノ法立テハ天下国家ヲ治ムルコトヲ得ヘシトノ説也

泰西ノ學者　孔子ヲ以テ「スクラチス」ニ比ス其一生ノ行為并教体大ニ似タル所アルヲ以テナリ然レトモ細ニ之ヲ考スレハ孔子ハ「ストイック」ニ類スルアリ才一ニ言行ノ並ヒ行ハレンコト才二ニ小利私欲ヲ戒ムルコト才三天地流行ニ則トリ從フコト。才四己ニ克テ道ヲ崇フコト。才五自分ノ身ヲ以テ道ヲ護シ生死ヲ共ニスルカ如キ皆「ストイック」ト孔子ノ似タル所ナリ

且ツ「ストイック」ノ「エピキュラス」ニ於ケル猶ホ孔子ノ楊子ニ於ケルカ如シ

然レトモ又両氏ノ大ニ異ナル所ニ三点アリ才一「ストイック」ハ「ヒジカル」理学ヲ本トシ孔子ハ之ヲ用ヰス。才二孔子ハ楽ヲ本トシ「ストイック」ハ楽ヲステヽ知ヲ求ム

〔孔學ト欧學ノ暗合スル所ヲ論ス〕

〔円了の漢詩〕

第十講　二月二十三日　雪融泥深

［円了の漢詩（大文字。半丁全体）　當年意氣欲凌雲　快馬南駆不見山　今日危途春而冷　檻車動夢度函関］

屯風破
浪一帆
還碧
海遥通
赤間關
三十六
灘欲尽
處天
辺初見
鎮西
山」

（因云）元極　靈極　大極　動静　少極

三教一致　明。林兆恩。陶宗儀。　此説ヲ唱フ　林子中ニアリ　○林子ハ林兆恩ノ著書也

輟耕録　陶宗儀ノ書也

老佛ノ教ハ一ニ帰スルモノトスヘシ老子ノ所謂ル無名ハ佛ノ如来性説ニ属ス

老子　無名　莊子　無々

列子　疑獨　孔子　大極

公孫龍ハ「アブソリュト」ヲ論シタルカ如シ其所謂ル離。トハ此意也

○欧人批評

欧人ノ支那學ヲ評スル誤謬少シトス

Bridgi　曰ク　支那古来大ニ影響ヲ有スルモノヲ孔學トス

Wake　曰ク　孔學ノ支那ニ行ハルヽハ皮相ノミニテ實際然ルニアラズト

Maurice 曰ク　孔子ノ目途ハ主君タルモノヲシテ職分ヲシラシムルニアリ

「シュウェグリヒ」曰ク東洋ノ哲學ハ「セヲロジー」「ミソロジー」ニ止レリト

「ユーベリッグ」ハ孔子ノ理論ハ科學ニ合セズト云

「ジョンソン」ハ孔子ノ理論ハ科學ニ合スト云

孔子學爰ニ終ル

第十一講　三月八日　陰晴

孔子死後諸弟四方ニ散シテ遺教ヲ弘ムト雖モ曾子最モ力アリトス曾子獨リ孔子ノ道ヲ得タルモノト称ス

孔子ノ子ヲ伯魚ト云ヒ其子ヲ子思ト云フ曾子ニ從フテ道ヲ受ク

〔子思〕

子思名ハ伋少時宋ニ邇キ楽朔ト語ル説合ハザルヲ以テ子思楽朔ニ對シテ曰ク汝ノ如キハ共ニ道ヲ語ルニ足ラスト楽朔大ニ怒リ兵ヲ出シテ子思ノ舘ヲ囲ム子思漸ク免カルコトヲ得タリ是ヨリ子思大ニ憤起シテ世ニ孔道ヲ傳ヘンコトヲ望ミ中庸ヲ作ル中庸ハ古来傳ハル所ノ説ニツイテ作クル所ナリ

其源ハ

堯命舜曰允執其中

舜命禹曰人心惟危道心惟微惟精惟一允執其中

是レ中庸ノ起ル所以ナリ

孔子曰中庸之為德也至矣乎民鮮久矣

〔中庸〕

是レニ由テ観レハ中庸ノ道タル堯ニ始マリ舜禹ニ傳ハリ孔子亦之ヲ述フ子思ニ至テ大成ス

中庸ノ義タルヤ一方ニ偏セサルノ意ニシテ「アリストートル」ノ中庸（ミーンス）ト異ナルコトナシ

程子中庸ヲ評シテ初メニ一本ノ大意ヲ挙テ中ニ之ヲ附引増長シ終リニ一理ヲ以テ之ヲ統フト云ヘリ

中庸ノ道ノ本源ハ天ヨリ出ツルモノトス故ニ其巻首ニ曰ク

天之命之ヲ性ト云性ニ從フ之ヲ道ト云　是レ一本ノ眼目也

第壱章　（イ）天之命之謂性。率性之謂道。脩道之謂教。　説道出于天

（ロ）道也者不可須臾離也可離非道也　説道不可離

（ハ）君子戒慎乎其所不睹恐懼乎其所不聞　説存養省察之要

（二）致中和天地位焉萬物育焉　説聖神功化之極

中庸一篇ハ唯此壱章ノ意ヲ述ベタルモノナリ

○子思ノ學孟子ニ傳ハル

傳統

孔子―曾子―子思―孟子

〔孟子〕

孟子○孟子名ハ軻字ハ子車或ハ子輿鄒邑人ナリ魯国

其先祖ハ魯ノ公族孟孫子ノ後ナリト云

孟孫子―激公宜父―仉氏（音照）―孟子

孟子ノ死生ノ年月未詳孟子譜ニ云フ所ニ依レハ

周ノ定王三十七年ニ生レ赧王二十六年ニ死ス　年八十四

都穆田藝衡等ハ此説ヲ信ス然レトモ其説信据シ難シ其故ハ年契ニヨリテ尋ヌルニ定王ハ二十八年ニテ死ス且ツ此年ヨリ赧王二十六年迄ハ百三十五年ナリ是レ陳士元ノ説ナリ

朱子曰自孔子卒至孟子游梁時方百四拾餘年而孟子已老則孟子之生去孔子未百年也

是レニ依レハ孟子ハ周安王二年ニ生ルトスヘシ

孟子説解曰疑孟子或生安王初年卒于赧王初年

孟子履歴○孟母初メ孟子ノ墓側ニ置ク次ニ遷リテ市場ニ行ク三タヒ轉シテ校辺ニ居ス之ヲ三遷ト云

孟子嘗テ豚ヲ屠ルヲ見テ母ニ問フ母告クルニ汝ニ食ハシムルナリト而母之ヲ欺カンコトヲ恐レ故ラニ買テ之ヲ食ハシム

孟母嘗テ機ヲ中断シテ孟子ヲ戒ムルコトナリ之ヲ孟母断機ト云

孟子學ヲ子思ニ受クルト云フ説ト門人ニ受クルトノ説アリ然カシ子思ヨリ學ヲ受ケントシヘタリ孟子　子思ニ見ユ子思大ニ喜フ或ハ孟子ノ紹介ナクシテ面接シテ喜フコトヲ疑問ス子思之ヲ喩ヲ取テ論セシコトアリ

孟子初メ齊ノ宣王ニ説キ次ニ梁ノ惠王ニ説クト雖モ迂闊ナリトシテ用ヰラレズ當時天下合縱連衡ヲ務メ功利ヲ競フノ時ニシテ仁義ノ道行ハレズ故ニ孟子退テ孟子七篇ヲ作為ス

孟子曰

聖王不作諸侯放恣處士横議楊朱墨翟之言盈天下天下之言不帰楊則帰墨

當時楊墨ノ道天下ニ行ハル孟子之ヲ排[排カ]シテ孔子ノ道ヲ弘ム

韓退之之ヲ称賛シテ其初禹ニ譲ラズトナス後ニ之ヲ亜聖公ト称ス

[円了の漢詩　桃花水煖送軽舟　皆指弧鴻欲没頭　雪山此良山一角　春風猶未糾江州]

[半丁分は漢字の落書き]

第十二講　四月十二日　快晴　春霞煖靄

孟子書○今傳ルモノハ七篇アリ其作者未詳司馬遷ハ孟子自ラ編スルモノト云又ハ門人ノ作ト云モアリ

林謹思　韓退之　薛德温　晁以道

此四人ハ孟子ノ門人ノ作ル所ト云フ説ナリ

司馬遷　趙岐　郝仲輿

右ハ　孟子自作ノ説ナリ

又　孟子ノ作リタルモノヲ門人ガ潤色校正シタリト云一説アリ

舊ト孟子ニハ七篇ノ外ニ四篇アリ都合十一篇

性善辯篇　文説篇

孝経　〃　為政〃

此四篇ハ外篇ト云ヒ本篇七篇ヲ内篇ト云ヘリ

孟子學○其學ハ孔子ヲ祖述スルモノニシテ荀子楊子ト同シ

孟子頌揚孔子曰

自生民以来未有孔子也

自生民以来未有夫子也

自生民以来未有盛於孔子也

是ヲ以テ孟子ノ孔子ヲ尊崇セシヲ知ルベシ

孔門ノ諸弟各孔子ヲ祖述スト雖モ各其一端ニ偏シテ諸説随テ分ル孟子ノ時ニ至テ益〻相離ル當時蘇秦張儀ノ學大ニ天下ニ行ハレ孔學ノ大ニ衰微タルヲ見テ孟子大ニ嘆慨シ子思ノ門ニ就テ其本旨ヲ奉シ正道ヲ開カントセリ子思ハ曾子ヨリ傳アリ曾子ハ孔子ノ直弟ニシテ其道ノ正義ヲ受クルモノトス故ニ孟子ノ傳フル所尤モ孔子ノ道ニ適切ナルモノト爾ス然レトモ其説ク所多少孔子ニ異ナルアリテ且ツ其力ノ孔子ニ及ハザルハ後學ノ説ヲ見テ知ルヘシ

程子曰未敢便道他是聖人然學已到至處

孔子ノ言フ所ハ判然トシテ外ニ其意ヲ示サス孟子ハ言ニ過キ其意ヲ外ニ示ス故ニ人ノ評難ヲ承クルニ至ル是レ孔

子ヨリ劣ル所ナリ然レトモ孟子ハ其時勢ノ大ニ孔子ノ時ト異ナル以テ権謀ヲ用ヰザルヲ得サルノ事情アリ

且ツ孟子ハ大ニ孔子ノ説ニ異ナル所アリ

〔才一別〕 程子曰仲尼只説一箇仁字孟子開口便説仁義

然レトモ仁義固ヨリ孟子ニ始メテ始マルニアラス

○其前ニ已ニ此説アリ

〔仁義〕 ○易説卦云立人之道曰仁義兼三才而両之

○中庸云仁者人也親々為大義義者宜也尊賢為大

○老子云大道廃有仁義

其他仁義之字出于墨子列子関尹子鶡冠子等

然レトモ他書ニハ往々仁義ノ二字ヲ見ルノミニテ孟子ニ至テ始テ其別義ヲ詳ニス故ニ仁義ノ二字ハ孟子ヨリ始ルト云フモ不可ナラス

〔才二別養〕 程子曰仲尼只説一箇志孟子便説許多養氣出来

〔才三別良心〕 又曰 孟子亦説一箇良心来

良心ノ事孟子ニ始マル然レトモ古書ニハ道心ト云フコトアリ其義良心ト近シ

道心之字見于古書（尚書并荀子）

〔才四別性善〕 程子又曰 孟子有大功於世以其言性善也

性善之論前聖所未発

然レトモ古書中全クナキニアラス

○詩大雅烝民云天生烝民有物有則民之秉彝好是懿德
○易繫辭云一陰一陽之謂道継之者善也成之者性也
○魯論云性相近習相遠也
又云人之生也直罔之生也幸而免
又云仁遠乎哉我欲仁斯仁至矣
又云道不遠人
○中庸曰天命之謂性率性之謂道
物徂徠ハ性善ノ事ハ老荘ノ中ニ始マルト云フト雖モ判然タル其字ダモ其書ニ見エス甚タ疑フベシ
性ヲ云フハ孔孟ニ始マルトスヘシ
孟子ヲ貴シタルハ宋儒ヨリ始マル古ハ大ニ之ヲ貶セシモノナリ
（桂啓芳ハ性ハ老荘ヨリ始マルノ説ナリ）

〔孔孟之別〕

〔孔子　言少シ　意ヲ外ニ顕ハズ　仁一字　一箇ノ志〕
〔孟子　辯ニ過ク　外ニ示ス　仁義二字　許多養気　良心　性善悪〕
〔才一　才二　才三　才四　才五　才六〕

第十三講

四月二十六日
風晴櫻花敷地

孟子學○孟子ノ説ク所孔子ノ言ハサル所ヲマジユト雖モ要スルニ孔學ノ範圍ヲ脱スル能ハス其説ク所皆孔子ヲ祖述シ其意ヲ開張スルノミナリ

孟子ノ説ク所仁義ナルモノ礼智ナルモノ皆孔子ノ仁ノ字ヲ活用シ来ルノミ其書ニハ單ニ仁ト云フナリ重テ仁義ト云ヒ仁義礼智ト云フアリ

（一）仁　（二）仁義　（三）仁義礼智

此仁ナルモノ全ク利ト相反スルモノトス然レトモ此利ナルモノハ私欲小利ヲ云フノミ

孟子ノ孔子ヲ祖トスル其證ヲ引クニ

孟子曰

（イ）乃所願則學孔子也

（ロ）自有生民以来未有孔子也

（ハ）孔子之謂集大成

孟子ハ孔子ヨリ世ノ後レタルヲ以テ其説ク所稍、異ナル所アルニ至ルモ勢ノ止ム能ハザルナリ

范氏曰蓋孔子之言為邦之正道孟子之言救時之急務所以不同

且ツ孔子ハ言少フシテ孟子ハ辯ヲ好ム故ニ其書論理ノ正シカラサル所一ナラズ辨ニ過テ却テ瑕ヲ求ムルモノナリ

孟子ノ仁義ナルモノ、如何ヲ知ラン為メ其證ヲ引クニ

孟子曰

仁天之尊爵也人之安宅也

仁人之安宅也義人之正路也

仁人心也義人路也

仁也者人也合而言之道也

又引孔子之言曰

道二仁与不仁而已矣

是ニ由テ観レハ孟子ノ道ハ仁義ニアルヲ知ルベシ猶ホ孔子ノ仁ヲ以テ道トナスカ如シ孟子ノ仁義ヲ以テ道ト為スハ仁義ハ人ノ本心ナリ仁義ノ外ハ本心ニアラサルナリ故ニ曰ク人皆忍ヒサルノ心アリ人ノ井ニ入ラントスルヲ見レハ己レニ惻(隠)ノ心アリテ生ス其心タルヤ則チ仁也是レ人ノ本心ニ性来仁ノ端アル所以ナリ又人ニ羞悪ノ心アリ辞譲ノ心是非ノ心アリ是則チ義礼知ノ一端ナリ是ノ四端ナキモノハ人ニアラザルナリ

何故ニ孟子ハ人ヲシテ此仁義ニ従ハサルヲエザルモノトナセシカヲ考フルニ孟子ハ此ヲ以テ善トスレハナリ

孟子曰人性之善也猶水之就下也人無有不善水無有不下

此ク孟子ハ人ノ性ヲ以テ善トシ堯舜ハ則チ其性ニ従フモノトシ桀紂ハ其天然ノ性ニ悖ルモノナリ人ノ悪ナルハ私欲ノ為メニ制セラレテ本然ノ性ヲ失フヨリ外ナラス人ノ生ルヽヤ良心ヲ有スト雖モ私欲ノ為メニ常ニ其性ヲソコナフト雖モ其實悪ナルニアラス

孟子ハ人ノ性ニ従フヲ以テ天ニ従フモノトス其天ナルモノハ心意ヲ有スル神ノ如キモノニ考フルカ故ニ天意ニ従フヲ以テ道トス斯ク天意ニ従フヨリ浩然ノ氣ヲ養フト云フコトヲ説クナリ猶ホ孔子ノ天ヲ楽ムト一般ナリ

〔浩然之氣〕

其為氣也至大至剛以直養而無害則于天地之間

又曰其為氣也配義与道無是餒也

此浩然ノ氣タルヤ孔子ノ未タ説カサル所ニシテ孟子始メテ言フ道德ノ道是レニ至テ備ハル凡ソ人タル生レテ天然

ノ性ニ從ヒ仁義ヲ守リ人道ヲ尽クストキハ自ラ足ル所アリテ浩然ノ気ノ如キモノヲ養フナリ
浩然ノ気タルヤ天地自然ノ氣ニシテ人ニシテ道ヲ守ル時ハ天地化育ノ氣ノ如ク宇宙間ニ満チハタリテ至ラザル所ナキ廣大ノ気ヲ云

第十四講　五月十日　雨天

〔政治〕

孟子ノ政治ヲ説クヤ孔子ニ同シク仁義ヲ以テ本トス

孟子説梁惠王曰
　王何必曰利亦有仁義而已矣
又曰
　苟為後義而先利不奪不饜
又曰
　未有仁而遺其親者也未有義而後其君者也

右ニツイテ観レハ孟子ハ仁義ヲ本トシテ政道ヲ説キ専ラ利欲ヲ戒ムルモノト知ルヘシ

又曰　仁者無敵
又曰　君子不戦々必勝矣
又曰　国君好仁天下無敵矣

人仁ヲ修ムレハ天下敵スルモノナク戦ハスシテ勝ヲ制スルコトヲ得
斯ク孟子ハ仁義ヲ以テ政本トスルヲ以テ道德ト政治相混シタルハ孔子ニ同シ

孟子ニハ多少人民ノ権理ヲ説キ大ニ之ヲ重ンスル風アリ之ヲ證セントスルニ先ツ支那ニテ孟子以前ニ民権ノ説アルモノヲ引カン

書五子之歌

民惟邦本本固邦寧

関尹子三極篇

聖人不以一己治天下而以天下治天下

亢倉子君道篇

夫国以人為本人安則国安

孟子曰

左右皆曰賢未可也諸大夫皆曰賢未可也国人皆曰賢然後察之

又曰

天子不能以天下与人

又曰

民為貴社稷次之君為軽

孟子又引書太誓曰

天視自我民視天聽自我民聽

孟子以前ニ民ノ権理ヲ説キシモノナキニアラズト雖モ孟子ニ至テ始テ民ハ邦ノ本ニシテ君ヨリ重キコトヲ説キタルコト明カナリ此点ニ於テハ孔子ト稍、異ナル所ナリ

孔子曰
非天子不議礼不制度不考文
又曰
民可使由之不可使知之

〔政道ノ孔子ト異同〕〔批評〕

要スルニ孟子ノ政道ハ孔子ト同ク仁義道徳ヲ本トス而シテ其異ナルハ孟子ハ君ヲ軽ンジ民ヲ重スルニアリ
○孟子ヲ評スルニハ孔子ト同理ヲ以テ論スヘシ唯、別ニ一評ヲ加ント欲スルハ孟子ノ仁義ノ心天然人ニ備ハルト云フノ点ニアリ人ノ井ニ入ラントスルヲ見レハ之ヲ救ハントスル心アリテ出ツ是レ人ニ天然ノ性仁義ヲ有スルヲ以テナリト云フ
西洋ノ説ニ従フニ人ノ井ニ落チントスルニハ自身ノ方ニ苦ヲ感シ其苦ヲ去ラントスルニハ其人ヲ助ケサルヲエス唯、一ニ之ヲ天性ト云フヲ得ズ
孟子ノ所謂ル良心即チ惻隠ノ心アルト云フハ「コンシインス」ノ事ナリ
先ツ性ノ善悪ヲ説カントスルニハ才一ニ性トハ如何ナルモノヲ云ヒ善トハ如何ナル事ヲ云ヲ定メサルベカラス而后其善悪ヲ説クヘシ孟子ノ性トハ「ヒュマン、子ーチュル」ノ事ナルヘシ之ヲ一ニ善ト云ヒ更ニ其定義ヲ先定セザルハ其論至テ疎[ネ]ナリト云フベシ
孟子ノ性ハ宋儒ノ性トハ大ニ異ナル所アルヲ覺ユ

〔荀子〕

第十五講　五月十[七日]

荀子

荀子名ハ况後世尊稱シテ荀卿ト云趙之人ナリ又ハ孫卿ト云フ漢宣帝ノ諱荀ト云フヲ以テナリ少時齊ニ遊フ讒ヲ得テ遁レテ楚ニ至リ春申君ニ登用セラレ楚ノ蘭陵令トナル春申君死後荀子此ニ家ス李斯韓非皆其門人ナリ荀子ノ意タルヤ孔子ノ道ヲ明カニセントスルニアリ故ニ孟子ト共ニ孔子ノ道ヲ傳フルモノナレトモ稍、其見ル所ヲ異ニスルヲ以テ荀子ハ孟子ヲ容レズ又莊子ヲ誚ル子ノ一家ノ説タルヤ性悪礼偽ノ一事ナリ故ニ後人荀子ヲ悪ムモノ多シ

〔性悪礼偽〕

然レトモ其意孔子ヲ祖述スルニアルヤ明ナリ

方孝儒曰。妄為蔓衍不経之詞以蛆蠹孟子之道其区々之心不過欲求異于人而不自知卒為斯道讒賊也

是レ荀子ヲ悪セシ言ナリ

日本物徂徠荀子ヲ辨護セリ

物徂徠曰今不讀其書而輒言之耳食者又從而和之豈不□乎

其實荀子ハ漫ニ誚ルベキモノニアラサルナリ

荀子三十二篇巻數二十

勸學篇　天論篇　性悪篇

右三篇ハ全部中ニテ尤モ讀ムヘキ所ナリ

文章ヲ以テ論スレハ冗長澁晦ニシテ明瞭ナラス

當時孔子ノ道大ニ衰ヘテ世間ニ行レズ荀子之ヲ憂ヒ其教ヲ再興セント欲ス

孟子ト其異ナル所ハ性悪ト礼偽トノ二点ニアリ

〔孟子ト異同〕

荀子學源□天論篇ニ就テ考フルニ天自ラ常ニ行フノ道ナリ其道タルヤ堯ノ時ニ存シテ桀ノ時ニ亡フルニアラス常ニ存シ常ニ行ハルヽモノナリ人トシテ此道ニ從ヘハ聖人トナリテ興リ之レニ反スレハ悪人トナリテ亡フ堯ノ興リ

〔常行之道〕

〔性悪〕

桀ノ亡ス唯、此道ニ從フト從ハサルニアルノミ君子小人ノ別又唯、此ニ由ル是即チ天地自然ノ「ロウ」ニシテ「子本セシチー」ノ義ニ稍、合スルカ如シ

人ノ性善悪亦此道ニ由テ分ルヽモノトス性悪篇ニ拠テ見ルニ人生ルヽヤ利ヲ好ムノ欲アリ又人ヲ悪ムノ性アリ聲色ノ欲アリ其性ニ從ヘハ争奪乱賊淫乱ノ風起リ仁義忠信地ヲ拂フニ至ルベシ其悪性ヲ轉シテ善ト為サント欲セハ良師ニツキ善教ヲ待タサルベカラス故ニ荀子ノ説タルヤ悪ハ人ノ本来ノ性ナリ善ハ偽造ノ果ナリ是レ孟子ト荀子ノ異ナル所ナリ人ノ性タルヤ學テ得ヘキモノニアラス天然ノ性ナリ其學ヲ得ヘキハ礼ナリ人ノ善トナルハ其本性ヲ矯正シテ得ルナリ荀子曰ク人ノ性タル饑レハ食ヲ欲シ勞シテ休ヲ欲ス故ニ其時ニ臨ミ父兄ニ辞讓セサルハ本性ナレトモ其父兄ニ辞讓スルハ本性ニアラス其辞讓ナルモノハ□學思慮シテ初テ得ルモノナリ

又孟子ヲ駁シテ曰ク若シ人ノ本性善良ナレハ聖人用フル所ナシ其性ニ從フテ可ナリ然ルニ聖人ナルモノアリテ刑法ヲ立テ政度ヲ起ス所以ハ人ノ性悪ナレハナリト云以上三点ヲ概スルニ孟子ハ人ノ性ハ善ナレトモ他ヨリ其性ヲ晦マシテ悪ニ赴カシム荀子ハ悪ハ本性ニシテ善ハ偽性ナリ

第十六講　五月二十四日

荀子ハ天ニ常行ノ道ナリ之ヲ順スレハ吉トナリ善トナリ之レニ逆ヘハ凶トナリ悪トナル之レニ順フハ天性ヲ矯正シテ後得ヘキナリ何ニニ由テ矯正スヘキヤ礼儀ニ由ルナリ之レニ由テ天性ヲ矯正シテ常行ノ道ニ順應スルコトヲ得ナリ是レ荀子全篇ノ主意ナリ

〔勧學〕

此理ヲ推シテ勧学ノ道ヲ立ツ人ハ本性ハ悪ニシテ之ヲ善ニスルニハ學問教育ノ道ヲ用ヰザルヘカラス

荀子曰

木受繩則直。金就礪則利

又曰

君子非異也善假於物也

君子トナリ聖人トナルモ本性ヲ矯ムルニアリ之ヲ矯ムルニハ礼義ヲ以テセザルベカラス

荀子曰

其數則始乎誦経。終於讀礼。其義則始乎為士。終乎為聖人

又曰

礼者法之大分群類之綱紀也故學至乎礼而止矣

孟子ハ詩ヲ好ム荀子ハ礼ヲ好ム楊子ハ易ヲ好ムト司馬光ノ云ヘシコトナリ

要スルニ荀子ノ學タル礼ヲ知ルニアリ

〔学本脩身〕

子ノ脩身ニ於ケル又礼ヲ以テ行ヲ正スニアリ

荀子曰

由礼則治通不由礼則勃乱提優

又曰

礼者所以正身也師者所以正礼也

是レ其本ツク所孔子ノ學ニアリ

此礼義ヲ以テ身ヲ正スノ一点ニ至テハ孟子モ荀子ニ異ナルコトナシ孟子ハ辞讓ノ心ハ礼之端ナリト云唯、異ナルハ孟子ノ礼ハ本来ノ性ニシテ學ハ之ヲ養成スルニ過キス

〔政治〕

荀子ノ政治ヲ論スルモ唯、一身上ノ事ヲ公衆ニ施スト云フニ過キス其帰スル所礼法ヲ以テ人民ヲ治メントスルニアリ

荀子曰

礼義者治之始也

又曰

脩礼者王

又曰

人生不能無群々而無分則争々則乱乱則離々則弱々則不能勝物故宮室不可得而居也不可少頃舎礼義之謂也

〔礼〕

荀子ノ所謂ル礼ナルモノハ其意義濶大ニシテ秩序ノ意ナリ西洋ノ「モラール、オードル」ト云フカ如シ

人ノ生ルヽヤ欲アリテ生ス之ヲ其欲スル所ニ従ヘハ人々争ハサルヲ得ズ之ヲ治メント欲セハ其分ヲ定メ礼ヲ設ケサルベカラス故ニ聖人先ツ礼ヲ定メテ人ヲシテ常行ノ道ニ従ハシムルニアリ礼ハ則チ常行ノ道ニ従ハシムル器械ナリ

第十七講　六月一日

〔揚子〕

揚子

揚子名ハ雄字ハ子雲蜀郡成都ノ人ナリ幼ニシテ學ヲ好ミ博覧見ザル所ナシ口吃ニシテ劇談スル能ハス清静無為嗜欲少ナリ功名ヲ求メズ而シテ聖哲ノ書ニアラザレハ好マス辭賦司馬相如ニ擬ス屈原カ世ニ容レラレサルヲ悲ミ自ラ以為ラク遇不遇ハ天也何ノ身ヲ沈ムルコトヲセンヤト乃チ反離騒ヲ作ル

年四十餘蜀ヨリ京ニ遊ブ王音奇ノ門下吏トナリ後ニ郎ニ除セラル王莽董賢ト官ヲ同フス莽位ヲ簒フニ及ンテ雄復タ侯タラズ轉シテ大夫トナル但、古ヲ好ミ道ヲ楽ミ名ヲ後世ニ傳ヘント欲ス以為ラク経ハ易ヨリ大ナルハナシト乃チ大玄ヲ作ル傳ハ論語ヨリ大ナルハナシト乃チ法言ヲ作ル史篇ハ倉頡ヨリ善キハナシト乃チ訓纂ヲ作ル箴ハ虞箴ヨリ善キハナシト乃チ州箴ヲ作ル賦ハ離騒ヨリ深キハナシ乃チ反離騒ヲ作ル辞ハ相如ヨリ麗ハシキハナシト乃チ四賦ヲ作ル而シテ心ヲ内ニ用ヒテ外ニ求メス

〔大玄法言〕

〔用ヒテ〕〔從ヒテ〕

王莽ノ時雄書ヲ天祿閣上ニ校ス罪ヲ恐レ閣上ヨリ投下シ幾ント死ス莽之ヲ赦シテ大夫トナス天鳳五年ニ卒ス享年七十一 侯芭ノ其門弟ナリ 雄没シテヨリ今ニ至ル迨千八百餘年其法言大ニ行ハレテ太玄ハ終ニ顕ハレス

〔遺書〕

揚子ノ法言凡十卷學行吾子修身ヨリ君子孝至ニ至ル迨凡十三篇アリ其文全ク論語ニ倣ヒ問答ノ法ヲ用ユ

宋咸曰彼法言準夫論語文高而絶義秘而渊

司馬光曰孟子之文直而顕荀子之文富而麗揚子之文簡而奥

薛敬軒曰揚子法言意實淺而飾以短澁奇古之詞何耶

蓋シ楊子ハ學問文章共ニ孟荀ニ及ハサルナリ

〔學問〕

揚子ノ學ハ全ク孔子ニ本ツキ孔子ノ道ヲ敷衍スルニ外ナラス故ニ

吾子篇曰好書而不要諸仲尼書肆也好説而不見諸仲尼説鈴也

君子篇曰仲尼之道猶四瀆也経營中国終入大海

又自ラ謂ヘルコトナリ道ニ入ルハ孔子ハ戸ナリト

〔修身政治〕

故ニ揚子ノ修身ヲ説クモ政治ヲ云フモ孔子ノ意ニ外ナラス但シ其創稱セシ所ハ

〔性善悪説〕

修身篇云人之性也善悪混。修二其善一則為二善人一修二其悪一則為二悪人一

蓋シ揚子ハ孟荀皆一偏ニ局スルヲ知リ之ヲ折衷シテ性ハ善悪混スト云ヘリ

司馬光曰如孟子之言所謂長善者也如荀子之言所謂去悪者也揚子則兼之矣

揚子ノ學ノ根本ハ「人之性也善悪混」ノ七字ニアリ故ニ啻ニ此ヲ以テ修身ノ本トスルノミナラズ其學ヲ論スルモ人ノ性ハ本ト善悪ヲ兼有スルモノナルユヘ唯、學ベハ善トナレトモ學ハザレハ悪トナルノ意アリ又其政治ヲ論スルニモ

先知篇云政之本身也

是レ脩身ハ政ヲ為スノ法タリトノ意ナレトモ修身ノ本ハ其性ノ善ヲ修ムルニアルカ故ニ揚子ノ學ノ根本ハ人之性也善悪混ノ七字ニ外ナラス揚子ノ創稱スル所ナリ

其他揚子ノ言中往々取ルベキモノアリ

修身篇云脩身以為弓矯思以為矢立義以為的奠而後発発必中矣　巧ニ修身正思ノ法ヲ述ベタルナリ

問神篇云人心其神矣乎操則存捨則亡能常操而存者其惟聖人乎　莊子ノ存心説ト同シク甚タ玄妙ノ意アリ

五百篇云莊楊蕩而不法墨晏儉而廃礼申韓險而無化鄒衍迂而不信　講師ノ説ニハ荀揚語而不精ノ一句ヲ加ヘントスト云

太玄経ニ玄ハ霊妙測ルベカラサルハ絶（アブツリユト）對ヲ指スニ似タリ

玄攡篇云玄幽攡萬類而不見形者也

玄卓然示人遠矣。曠然廓人大矣渊然引人深矣渺然絶人眇矣

近レ玄者玄亦近レ之遠レ玄者玄亦遠レ之譬若ニ天蒼々然在於東西南北仰而無不在焉及其俛則不見也

玄數篇云玄有一道一以三起一以三生　玄ハ萬物ノ原始ノ義アリ

玄者神之魁也天以不レ見レ為レ玄地以不レ形レ為レ玄人以二心腹一為レ玄

玄鴻綸二天元一而婁而拑二於將來一者乎大無方易無時然後為鬼神也

果シテ然ラバ揚子モ亦人類ノ外一種知ルベカラサルモノアルヲ信ゼシ人ナリト謂ハザルヲ得ス

畢